

2027年2月期

第2四半期(中間期)決算補足説明資料

(2026年3月1日～2026年8月31日)

2026年10月9日

株式会社ジュンテンドー

(証券コード：9835)



2027年2月期第2Q：決算概要

1：営業収益について

- ・物価高による消費者の購買意欲の低下や他社との価格競合等に伴う来店客数の減少が前期より継続、主力の農業・園芸関連用品や建築資材、日用消耗品、ペット用品等を中心に幅広い分野で消費者の購買抑制の影響を受け、営業収益は前期比で9.65億円の減少となりました。

2：売上総利益について

- ・営業収益が減少を続ける厳しい状況の中、2025年2月期より行っている値入率の改善の取組の結果、売上総利益率は前期より1.12ポイント程度改善し、売上総利益の減少を最小限に抑えました。

3：当期中間純利益について

- ・営業利益については、全社的なコスト削減に努め販売費および一般管理費が前年同期比で1.45億減少した結果、前年同期比0.86億円増加の9.58億円となりました。
営業利益の増加要因により、経常利益、当期中間純利益においても前年同期比で増加する結果となりました。



2027年2月期第2Q：損益計算書

(単位：百万円)

	2026年2月期第2Q	2027年2月期第2Q	前年比
営業収益	23,488	22,523	95.9%
うち総売上高	23,017	22,065	95.9%
(HC事業)	22,990	22,065	96.0%
(BC事業)	26	-	-
うち営業収入	471	457	97.0%
売上総利益	7,039	6,994	99.4%
営業総利益	7,510	7,452	99.2%
販売一般管理費	6,639	6,493	97.8%
営業利益	871	958	109.9%
経常利益	850	918	108.1%
中間純利益	572	632	110.4%

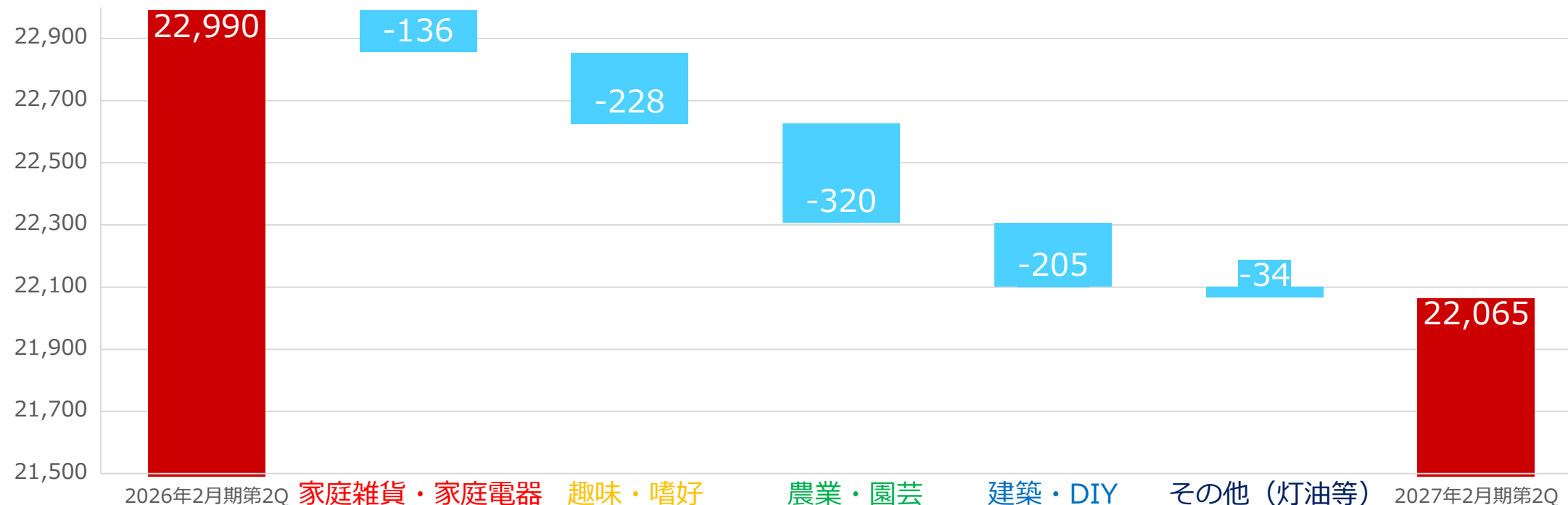
※ BC事業は2025年4月をもって終了しました。



売上高の状況：部門別の増減

(単位：百万円)

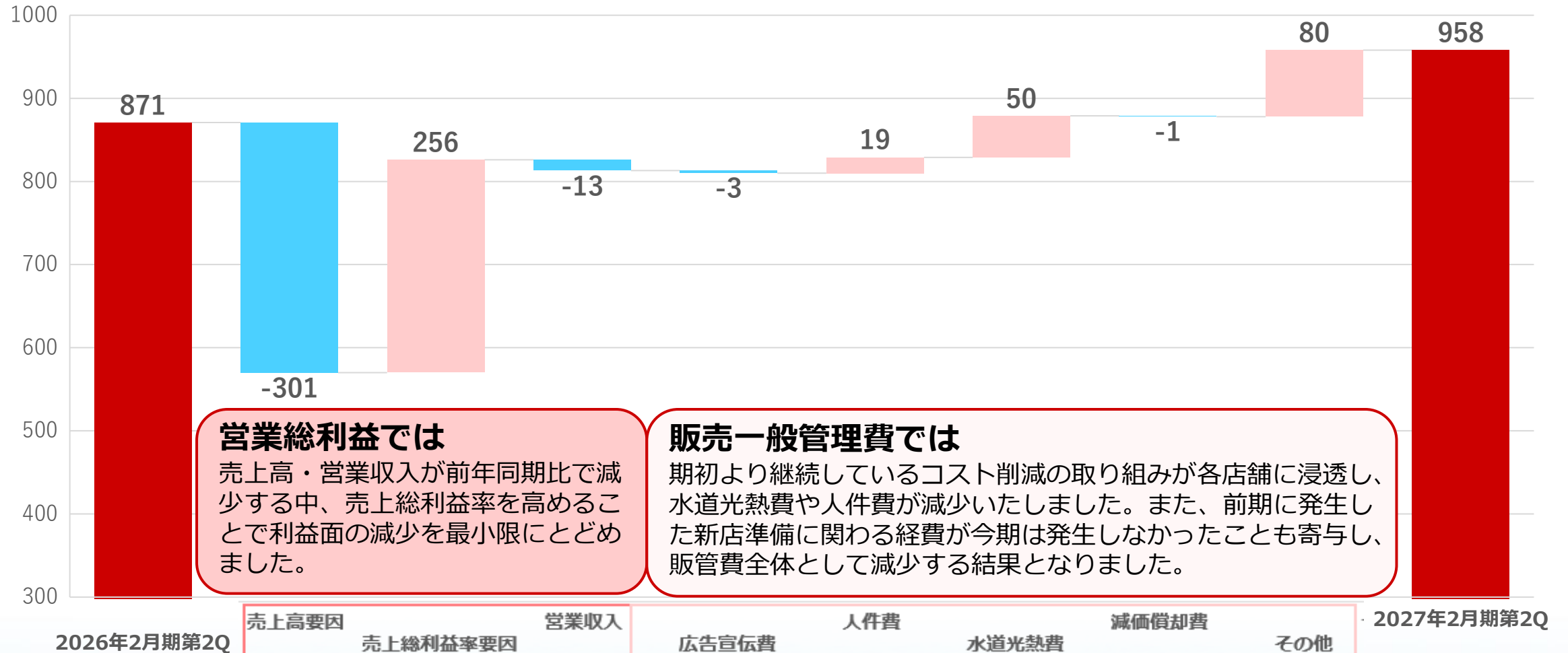
※ホームセンターのみの売上高



・省エネルギー基準の改定に伴い需要が増加したエアコン（家庭電器）や、中東情勢の緊迫化により一時的に需要が増加した石油由来商品のごみ袋、ラップ（ともに家庭雑貨）、塗料、接着剤（ともに建築・DIY）等の補修用品、一部建材等が好調に推移したものの、主力の農業・園芸関連用品や建築資材をはじめ、日用品、ペット用品（趣味・嗜好）等幅広い分野で消費者の購買抑制の影響を受け、全体としては低調に推移しました。

営業利益の増減要因

(単位：百万円)



2027年2月期第2Q：貸借対照表

(単位：百万円)

		2026年2月期末	2027年2月期第2Q	前期末増減
資産の部	流動資産	16,156	16,095	-61
	うち 現金及び預金	1,853	1,258	-594
	うち 商品	13,180	13,486	305
	固定資産	25,164	24,784	-379
	うち 有形固定資産	19,346	18,903	-443
	うち 無形固定資産	465	440	-24
	資産合計	41,321	40,879	-441
負債の部	流動負債	12,831	12,445	-386
	うち 短期借入金	1,200	500	-700
	うち 一年内返済予定の長期借入金	3,039	2,954	-85
	固定負債	15,899	15,139	-759
	うち 長期借入金	11,577	10,901	-675
	負債合計	28,730	27,585	-1,145
	純資産合計	12,590	13,294	703
	負債・純資産合計	41,321	40,879	-441
	自己資本比率	30.5%	32.5%	-

資産の部 主な増減要因

現金及び預金	-594
建物及び構築物	-320
要因：減価償却	
商品	+305
売掛金	+170
要因：キャッシュレス比率の増加	

負債の部 主な増減要因

支払手形及び買掛金	-277
電子記録債務	+379
借入金	-1,460

純資産の部 主な増減要因

中間純利益	+632
-------	------



2027年2月期第2Q：CF計算書

(単位：百万円)

	2026年2月期第2Q	2027年2月期第2Q	前期比増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,493	1,082	-1,411
うち 税引前中間純利益	842	911	69
うち 減価償却費	587	589	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	-2,947	-45	2,902
うち 固定資産の取得による支出	-2,304	-99	2,204
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,386	-1,632	-3,018
現金及び現金同等物中間期末残高	2,212	1,258	-953



出店の状況

2026年8月末時点の状況

店舗数	115店舗
店舗数増減(前期末比)	1店舗減
総売場面積	248,707㎡
売場面積増減(前期末比)	1,154㎡減



当期の取組：JAとの協業について

鳥取西部での協業開始

・2024年より当社はJAとの協業を行っており、島根県ならびに広島県の一部の店舗においてJAマーク商品を取り扱っておりましたが、2026年6月15日にJA全農ととりおよびJA鳥取西部と三者契約を行うことで、鳥取西部エリアでもJAマーク商品の取扱いが可能となりました。

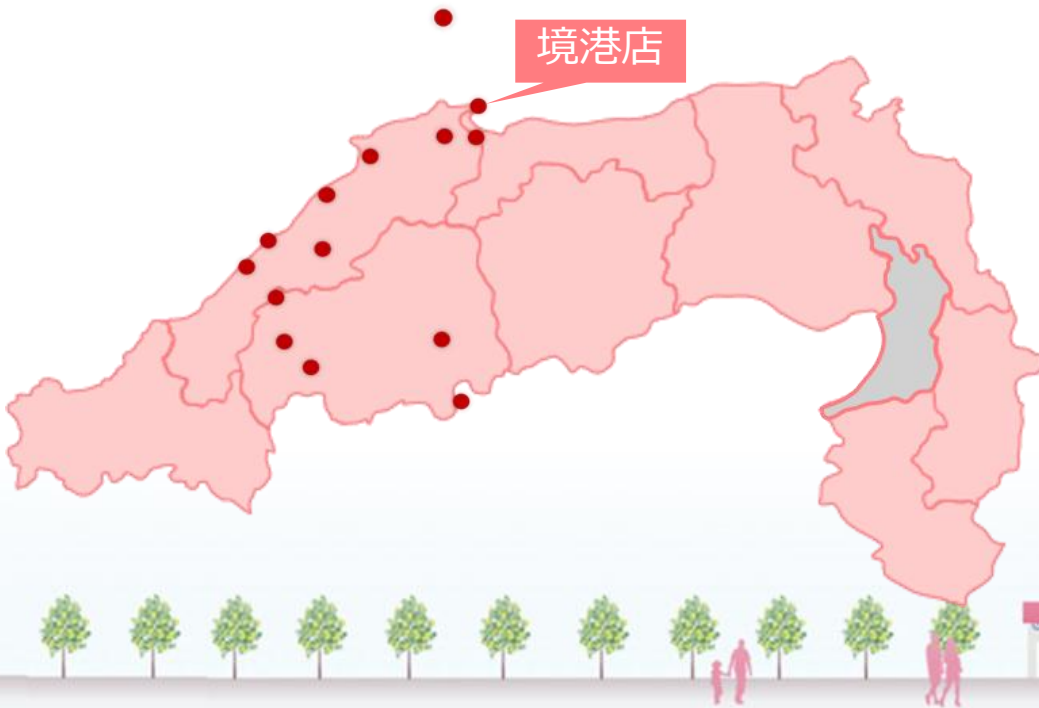
8月1日には当社境港店(鳥取県)にてJAマーク商品の取扱いを開始いたしました。



JA全農ととり、JA鳥取西部との契約締結



JA商品を取扱い可能となった境港店



協業の契約を行ったJA
JAしまね JA広島市 JA尾道市
JA鳥取西部 (調印順)
(2026年8月末現在)

JAマーク商品を取り扱う店舗
島根 8店舗 広島 5店舗 鳥取 1店舗
計**14**店舗
(2026年8月末現在)



各JAとの契約締結



メディアを活用した情報発信について①

SNS（インスタグラム）

ショート動画を用いてお客様のライフスタイルにマッチした情報の発信を行っております。



【園芸チャンネル】

季節の花や野菜、その栽培方法、店舗で行われるイベント等を発信しています。

アクセスはこちら→



【ライフスタイルチャンネル】

家事に役立つ話題の最新商品や、生活を快適にしてくれる便利な商品を発信しています。

アクセスはこちら→



【DIYチャンネル】

DIYに便利な工具や、実際の使用シーン、お買い得なイベント情報を発信しています。

アクセスはこちら→



メディアを活用した情報発信について②

動画コンテンツ (YouTube)

主に数分程度の動画を用いて、暮らしに役立つ当社のおすすめの商品やその使い方をはじめ、おなじみのテーマソング、社員による研修風景、インタビュー等を発信しています。



アクセスはこちら→



サステナビリティの取組

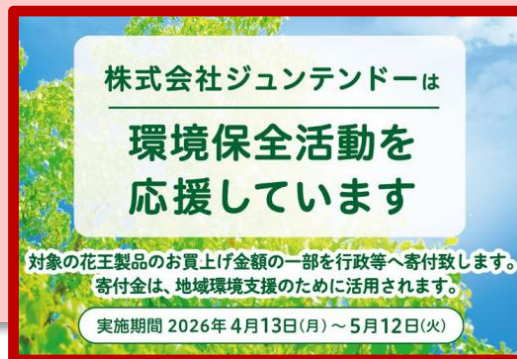
環境

環境保全活動の応援

環境負担を軽減する商品の販促と環境保全活動への寄付

当社は花王グループカスタマーマーケティング株式会社との販売活動を通じた共同の社会貢献企画として、環境負荷の少ない対象の花王商品の期間中売上の一部を、公益社団法人島根県緑化推進委員会に寄付いたしました。寄付金は森林保護、植樹活動など環境保全運動に使用されます。

当社は今後も事業活動を通じて、循環型社会の実現への取組と地域と地球の環境保全に貢献してまいります。



※今回のキャンペーン期間は既に終了しております

社会

職業体験の機会の提供

ホームセンターの魅力を広く知っていただくことを目的として、当社では職業体験を受け入れております。地元の小中学校等の教育機関の依頼に応える形で職場体験学習の受け入れを随時行っているほか、8月にはBSS山陰放送主催「さんいん未来キッズプロジェクト」や、子どもたちが自分の“好き”を発見するリアルイベント「キッズダムひろしま」への協賛を行い、小学生を対象としてホームセンターの職業体験を行いました。当社は地域の将来を担う子どもたちに体験と学習の機会を提供することで、子どもたちの未来の充実と地域社会の活性化を応援いたします。



2027年2月期業績予想

(単位：百万円)

	2027年2月期 通期予想	営業収益比 (通期)	増減率 (前期比)	2026年2月期 実績(参考)
営業収益	44,000	100.0%	2.2%	43,040
営業利益	420	1.0%	76.4%	238
経常利益	300	0.7%	43.8%	208
当期純利益	150	0.3%	-	-361

※ 業績予想は現時点で把握可能な情報から判断した仮定に基づくものであり、経済動向や市場環境などに関わるリスクや不確実性を含んでおります。
そのため、実際の業績は当社の見込みと異なる可能性があります。

